

2018年度研究研学術活動報告(Seeds 支援)「NPO組織の同型化に関する研究-東日本大震災の経験から」

雑誌名	現代社会研究
巻	16
ページ	203-203
発行年	2019-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1060/00010693/



2018年度研究所学術活動報告（Seeds 支援） 「NPO 組織の同型化に関する研究—東日本大震災の経験から」

1. 研究課題

「NPO組織の同型化に関する研究—東日本大震災の経験から」

2. 概要・目的

本研究の目的は、第一に、東日本大震災被災地の復興に関わるNPO法人への期待が形成される課程と、その結果として進行する現地NPO法人の組織的同型化について、地方自治体などの既存の社会組織との関係性も含めて実証的に検討することであった。そして第二に、以上の検討を通じて、日本社会でのボランティア組織のあり様を考えることであった。

そしてこれらの課題に取り組むにあたり、今年度は、東日本大震災被災地でのNPO法人の活動支援に深く関与してきた日本NPOセンターの職員にインタビュー調査を行うこととし、来年度以降に、被災地のNPO法人や関連諸機関を対象とする調査をする計画をたてた。

3. 主査・メンバー（構成）

須田木 綿子（東洋大学社会学部）（代表者）

榊原 圭子（東洋大学社会学部）

門 美由紀（元東洋大学社会学部・人間科学総合研究所客員研究員）

米澤 旦（明治学院大学社会学部）

4. 今年度の活動・成果報告等

上記の研究課題に取り組む過程で、社会学領域の組織論の視点からの理論的検討を強化する必要性を認識するようになった。そこで、当初、現代社会総合研究所の予算で執行する予定であったインタビュー調査については別に研究費を確保して行い、当該研究所の予算を、理論的検討強化のために用いることとした。

まずは研究メンバーで、著書や既存の論文をもとに理論的な学習と検討を重ねた。そして3月に、組織論の権威である米国Arizona Universityの教授であるJoseph Galaskiewicz氏を招聘し、理論的な視点からの助言を仰ぐこととした。この検討の場は公開し、関心を共有する国内の研究者にも議論に参加いただく計画である。氏の招聘スケジュールは下記のとおりである。

2019年	3月5日	来日
	3月9日	公開検討会
	3月10日	離日